12/12 ルカの福音書 2 章 1-20 節「この方こそ主キリスト」

小池 宏明 牧師

ルカの 2 章によれば、イエス様誕生の知らせを最初に受けたのは、野宿する羊飼いたちだった。イスラエルを治める王様が世界の歴史の中で誕生するというのに、どうして羊飼いに伝えられたのだろうか？

＊軽蔑されていた羊飼い

当時イスラエルの指導者たちの規定によれば、首都エルサレムからベツレヘムまでの定められた地域にいる羊や牛は、いけにえのための動物であると見なさなければならない、と定められていた。それで、ベツレヘム近くの羊飼いはエルサレム神殿で捧げられる羊も飼育していたと考えられる。神殿で捧げる羊を育てるのだから、羊飼いの身分は高かったのではないか？と思われるかもしれないが全く違う。動物を育てる羊飼いは、野宿して夜番をする必要があったし、安息日にも羊の世話をしない訳にはいかない。イスラエル社会の指導者から見れば、羊飼いは、安息日を守れない罪人であると、軽蔑されていた。

＊軽蔑されている者に御目を留める主

そんな羊飼いに、御使いが顕われた。（10-12 節）羊飼いたちは、非常に恐れ驚いた。しかし、御使いのことばを信じた彼らは、すぐに行動を開始した。彼らは、救い主の「しるし」を「見届けて来よう」と急いで出かけた。（15、16 節）ところが、この喜ばしい知らせが広く宣べ伝えられるように考えるなら、当時の羊飼いが役立つのかどうかは疑問である。しかし、主なる神様の御心は、役立つ役立たないという基準で働くのはなくて、世間から軽蔑されているような人々に、御心を留められるのだ。主は、人々から顧みられない人や、身分の低い者にこそ関心を持っておられ、救いの御業を成して下さった。この事は、イエス様が、家畜小屋で産まれ、飼葉桶に寝かされたことにも象徴的に現れている。イエス様は、まことに貧しく、小さく、権力や富とは無縁の姿で生まれて来られた。そして、当時の羊飼いのように、軽蔑されているような低き者を今も愛して救い出して下さるのだ。

＊羊飼いたちの応答

イエス様に出会った羊飼いたちは、自分たちの見聞きしたことを、周りにいる人たちに伝えないわけにはいかなかった。（17、18 節）さらに、羊飼いたちの内側から賛美の歌が湧き上がった。（20 節）喜びに溢れていたからである。

救い主、イエス・キリストとの出会いは、この時の羊飼いのように、私たちに変化をもたらすものである。羊飼いの信仰の姿を模範にしたい。